

## 神殿講話

166年12月21日

只今は結構に、本年納めの月次祭を寒空にも拘わりませず大勢の皆様がお帰りくださり共々に勇んでおつとめさせていただきました。誠にご同慶に存じます。

御命をいただきましたのでしばらくお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

教祖120年祭に向かう三年千日の年祭活動の初年度の本年でございました。

立教166年 平成15年 西暦2003年どんな1年だったでしょうか？

世上では、イラク戦争があり、国内では、阪神タイガースの優勝がありました。

10大ニュースは何かと報道されています。

### 流行語大賞

2003年	毒まんじゅう なんでだろう～ マニフェスト 勝ちたいんや！ コメ泥棒 SARS 年収300万円 バカの壁 ビフォーアフター へえ～	野中広務 テツ and トモ 星野仙一 養老孟司	タイガースの優勝
2002年	タマちゃん W杯（中津江村） 内部告発 ベッカム様		
2001年	米百俵／聖域なき改革／恐れず怯まず捉われず／骨太の方針／ワイドショー内閣／改革の「痛み」 明日があるさ		
2000年	IT革命 おっはー 最高で金 最低でも金 ジコチュー（ジコ虫） めっちゃ悔し～い		

それぞれ、皆様にとっての今年はどんな年だったでしょうか？

私の1年は、

昨年12月13日、あまりにも突然の母の出直しにビックリしましたが、新霊様をお祀りしての新年を迎えました。もう既に年賀状を買ってありますので、急遽、喪中ハガキに急遽変えて投函したのを覚えています。関係者も年賀状から喪中ハガキに変えて送ってくださり誠に申し訳なく思いました。

今年も明けた早々の1月2日に坂木久さんが大淀病院で出直しました。

ご存知の方もおられますが、坂木久さんは、一昨年に九州に住んでいる私の知人の紹介で

知り合った方で、知人から「たすけてあげていただきたい人がいる」とのことで、福岡で初めて出会わせていただいた人でした。当時は、大野城市の「十全病院」に入院中でしたが、十全のご守護の十全と書くんですね。修養科、講習と終わり、大教会で「お風呂のひのきしん」を喜んでつとめておってくださり、さあこれからという時に、「肺ガン」になりました。昨年1月26日に桜井市の済生会病院に入院したときに、主治医から「後1年の命」と診断されて、今年1月2日の出直しですから、主治医の診たて通りに「1年の命」となってしまうました。この入院中は、親会長さんや大教会長さんにもたびたびおさづけに通っていただきました。ありがたいことだと思わせていただいています。この入院中に、神奈川県茅ヶ崎に住んでる息子と埼玉県春日部市に住んでる娘が桜井の済生会病院に見舞いに来ました。娘とは、10年以上、息子とは20年以上も出会っていません。坂木さんは、若い時に、九州の農家が嫌で、坂木家の相続しないで充分お金をもって東京へ出て、トラック運転手として長距離を走っていたそうです。結婚して二人の子どもに恵まれましたが、その後に離婚。二人の子どもを引き取って暮らしていたそうです。しかし、男手だけではうまく行かず、九州の実家に子どもを預けて、そこから学校に通わせてもらっていたと聞いています。その頃、坂木家は、姉が恋愛で嫁に行くはずだったのですが、他の男兄弟二人も相続しないで、結局はお姉さんが嫁に行かずに養子に来てもらって坂木家を継いでくれておったんです。また、このお姉さんが良く出来た人で、出直した久さんが、九州に舞い戻って来てからの世話や、東京に嫁いだ実の妹の離婚、出直しなど。またその子どもが九州の坂木家を頼って4年ほど前に来てるんです。もういい年です。41歳かな？そば打ち職人なんですが、今までに貯めたお金で生活してます。先月に出会ったときは、「もう30万しかないから働く」と言っていました。その学君がボクが九州に行ったときの運転手してくれるんです。

ま、そんなこんなで 今年の1月3日遷霊祭 4日告別式でした。雪が舞うとても寒い日のお葬式でした。

私の今年は、お葬式から今年が明けましたね。年末の母の出直しと新年早々の坂木さんの出直しで騒々しい今年が明けました。

4月6日の大教会創立110周年記念祭をはさんで、

7月半ばにまた、九州から同じ知人からの「たすけてやってほしい」との要請で一人の女性を預かることになりました。

8月から修養科へ。同期の修養科生は北海道の80歳のおばあちゃんと九州のその女性の二人でした。教養掛は栃原の会長さん。特に栃原の北平先生にはご苦労をおかけしました。九州から来た女性は、「わがまま、きまま」な性格で、栃原の会長さんが体調を崩した原因の一つには教養掛の疲れが、ストレスがあったと思っています。

そこで思案するのですが、

九州の知人は、「たすけてあげてほしい」と、私に頼んできたのは、自分を頼ってもらっても「私にはたすけられない」と判断したからですね。「今、1000円あったら助かる。なんとかして」という程度のことならその知人もそうしたでしょうが、そんな簡単なものじゃない。こりゃ困った。それで私のところに言ってきたんですね。私も「こりゃ、私の力ではとても助けてあげることにはできない」と、今度は神様を頼って、「どうか助けてあげてください」とお願いするんですね。

ほこりが一杯溜まっていんねんになって、とてもこれではダメだということまで行ってしまっただけ教会を頼って来ないでしょ。神様を頼って来ないでしょ。神様は、「人をたすけたら 我が身たすかる」と、教えてくださっています。

だから、人をたすけないと自分はたすからないんですね。

いつも思うのですが、一般論ですが、

徳が無い人（ほこり心が一杯の人、いんねんの悪い人）

- 1 人の欠点がよく目につく
- 2 人を責める
- 3 不平不満を機関銃のように言う（毒ガス）
- 4 泣き言を並べる
- 5 苦勞を嫌がる
- 6 自己反省が出来ない
- 7 上手に言い訳をする

徳の無い人はどうなるか

- 1 人にお金を貸しても返してもらえない
- 2 愛した人に逃げられる
- 3 助けた人に背かれる
- 4 世話をしても喜んでもらえず悪口を言われる
- 5 事業をはじめても失敗する
- 6 子孫があっても親の役に立たない
- 7 死んだほうがましだと思う

徳が無くなったら、暗い人生を歩むことになります。何もかもうまく行かない。

しっかり徳を積む努力をする生き方をすることが大切です。

徳を積む努力は、埃を払うことにつながり、いんねんを切り替えて行くことにつながっていきます。

昭和 28 年二代真柱講話集

（前略）旧教典では、布教ということをどんな気持ちで考えていたか。古い教典では、布教とは困ったり悩んだりして人を救けるものだと考え、何か一つの武者修業のような気持ちで出掛けて行ったので、救けるものと救けられるものという二つに分かれる。然し、新しい教典で言うならば、共々に喜んで道を求めるということになるのである。又、新教典からすれば、同じ教会の理につながる何人かの人、教会長、信仰者の立場は別であっても、力を協せて進む、お互が励まし合って、一つの道を求めて行く、それが本当の教会であり、それが、一つの姿であれば、それが陽気ぐらしの姿である。共々心を協力せて、陽気ぐらしの理を聞いたものは、教えるのではなくて知らずのである。（以下途中略）

信心とは、各自々が、人の心を掃除するというのではなく、自分の心を掃除するのである。

教会長は、信者の迷いを解くのではない。迷いを解くのなら、辞書を見ればよいし、仏教、キリスト教の間にもその例がある。これにはこれ、あれにはあれと言うのではなしに、来た人が、心の掃除にいそしみ、芯に肉を巻く教会でなくてはならない。深い理を我が身に悟らしてもらうこと、これが陽気ぐらしのもとであります。

自分の心のほこりを拂う。そこに陽気ぐらしの世界が建設されるのである。」

心の掃除にいそしむ。深い理を我が身に悟らせてもらう。  
教えるのではなくて知らせるのである。と教えてくださっています。  
自分の心のほこりを拂う。そこに陽気ぐらしの世界が建設される

目的は、「自分の心のほこりを払うこと」「神が箒や」とも教えていただきます。

ほこりとは、八つのほこりです。

「をしい、ほしい、にくい、かわい、うらみ、はらだち、よく、こうまん」

ほこりの説き分けの要点は、

をしいと申しますのは、廃るものを惜しむのでなく、惜しんで廃らず、天理に叶わぬ出し惜しみ骨惜しみがほこりであります。

ほしいと申しますのは、価を以てのほしいでなく、価なくして、又、我が心の器を思わずして、ただほしいの思いをつのらすのがほこりであります。

にくいと申しますのは、その場でできた罪を憎むのでなく、人を憎んで罪をこしらえるのがほこりであります。

かわいと申しますのは、隔てのない可愛いでなく、我が身と人の身、我が子と人の子の隔てをしての我が身勝手の可愛いと、愛に溺れるのがほこりであります。

うらみとは、我が身のあしきをさんげせず、人をあしく思って恨むのがほこりであります。

はらだちとは、人を立てず理を立てず、己が理が立たんといって腹を立てる、短気癩癩腹立ちがほこりであります。

よくと言うのは、世のため人のためというのでなくて、私利私欲にむさぼる強欲貪欲がほこりであります。

こうまんと言うのは、信じ敬う心なく、思い上がり人を見くだし人を踏みつけにする、我慢、自慢、高慢がほこりであります。

そこで

年祭活動とは、具体的にどうするのか？ どう考えたらいいのか？

私は、「喜び三昧の日々を通る」ことだと思います。  
それは「徳を積む生き方」を目指すことになるのだと思う。  
そして、それは、「心の掃除をすること」「ほこりを払うこと」になってきます。

ほこりを払う実動、

「チラシ配り」であったり、病気の知り合いがおれば「おさづけの取次ぎ」となったり、  
「人をたすけたら 我が身たすかる」  
人をたすけなかつたら我が身たすからないことになる。  
たすけてもらってばかりでは、たすけていただけないことになる。  
もう十分にたすけてもらっているかもしれません。

人様がたすかってくださる行いがほこりを払う実動となる。どんなことでも「人様がたすかつた」と言ってくくださる行いが「ほこりを払う」ことになる。

チラシをポストに入れて歩くことも、先ほど言ったおさづけを取り次がせていただくことも人様に喜んでくださる、人様にたすかっていただくことがほこりを払うことになる。

埃を払う行いが、すなわち結果として徳を積むことになるんですね。

おさしづに

「善い事も切りが無ければ、悪しき事も切りが無い。(中略)理は見えねど、皆帳面に付けてあるのも同じ事、月々年々余れば返やす、足らねば貰う。平均勘定はちゃんと付く。」

「理は見えねど、皆帳面に付けてある」

「平均勘定はちゃんと付く」と仰ってくれています。今が平均勘定かもしれません。

今年もあと僅かとなりました。

「あ～あ、今年もいろいろなことがあったけど、これは私をもっともっと成人させてくださるための親心やったんやなあ」と悟らせていただき、「成って来た理」を素直に喜べる信仰を持ちたいと思います。

今日まで結構に暮らせていただいているお礼を今日の月次祭でしっかりお礼を申し上げて、これから迎える新しき年も喜びづくめで通らせていただきたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。